

事後評価結果（平成29年度）

担 当 課：青森県 県土整備部 道路課

担当課長名：山本 隆史

事業名	地域高規格道路 <small>しもきたはんとうじゆうかんどうろ</small> 下北半島縦貫道路 一般国道279号 <small>ありときた</small> 有戸北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	青森県
起終点	自：青森県上北郡六ヶ所村尾駈 <small>かみきた ろつかしよ おぶち</small> 至：青森県上北郡野辺地町向田 <small>かみきた のへじ むかいだ</small>			延長	6.3 km

事業概要

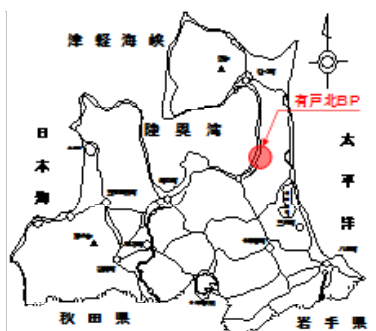
下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市むつ市と東北縦貫自動車道八戸線を結ぶ延長約60kmの地域高規格道路である。有戸北バイパスは、一般国道279号の青森県六ヶ所村尾駈～同野辺地町向田の延長6.3kmの2車線道路であり、平成24年度に全線2車線で開通している。

事業の目的・必要性

有戸北バイパスは、JR大湊線平面踏切、急勾配及び線形不良といった現道隘路の解消と下北地方生活圏の連携強化を図るとともに、国家エネルギー施策を進めているむつ小川原開発地域へのアクセス強化を目的としたバイパス事業である。

事業概要図

【位置図】

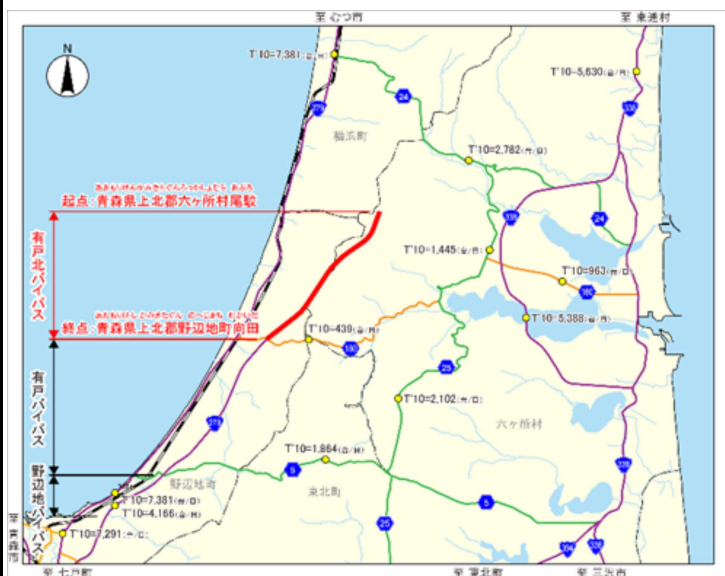
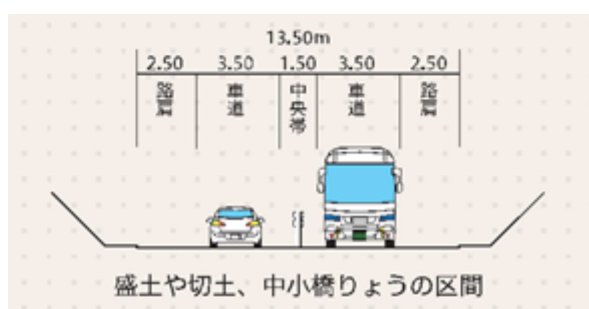


【事業概要】



下北半島縦貫道路 (L=約68km)

【標準横断面図】



事業の 効果 等	事業期間	事業化 都市計画決定	平成12年度 —	用地着手 工事着手	平成14年度 平成17年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) —/H20 (実績) —/H24	変動	1.2倍
	事業費	再評価時 (暫定/完成)	(名目値) —/114億円 (実質値) —/117億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) —/104億円 (実質値) —/143億円	変動	0.9倍		
交通量 (当該路線)	計画時	将来交通量 (H42) 8,600台/日	実績	現況交通量 (H27) 3,163台/日	変動	—%			
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	53.65km/h → 67.9km/h (供用前年次)H24年度 (供用後年次)H25年度 ※いずれも上下線をあわせた平均旅行速度			交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	2件/年 → 1.3件/年 (H14-H23) (H25-H27)				

費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C 1.3	総費用 123億円 事業費：117億円 維持管理費：5.9億円	総便益 164億円 走行時間短縮便益：101億円 走行経費減少便益：39億円 交通事故減少便益：25億円	基準年 平成21年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 2.3	総費用 151億円 事業費：143億円 維持管理費：8億円	総便益 346億円 走行時間短縮便益：247億円 走行経費減少便益：64億円 交通事故減少便益：36億円	基準年 平成29年
事業遅延によるコスト増		費用増加額 —	便益減少額 —	

事業遅延の理由

・特になし

客観的評価指標に対応する事後評価項目

- ①重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる
 - ・野辺地町(役場)⇒むつ小川原港(重要港湾)への所要時間
(現況：39分→整備後：33分)
- ②主要な観光地へのアクセス向上が期待される
 - ・七戸十和田駅(新幹線駅)⇒六趣酒造工房(主要な観光地)への所要時間
(現況：53分→整備後：47分)
- ③三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる
 - ・六ヶ所村(役場)⇒青森県立中央病院(三次医療施設)への所要時間
(現況：81分→整備後：75分)
- ④現道等における交通量の減少、安全性向上の状況
 - ・国道279号現道の交通量(現況：6,010台/12時間→整備後：4,351台/12時間)
 - ・国道279号現道の死傷事故件数(現況：2件/年→整備後：1.3件/年)

その他評価すべきと判断した項目

・特になし

事業による 環境 変化	環境影響評価に対応する項目	現場内に数カ所ボックスカルバートを設置し小動物の横断が可能となるように対応した。平成20年に実施した環境調査において、ボックスカルパート内に小動物の足跡や糞があり通過していることを確認した。
	その他評価すべきと判断した項目	・特になし

事業評価監視委員会の意見	・特になし
--------------	-------

事業を巡る社会経済情勢等の変化	
-----------------	--

○高規格幹線道路の整備状況

・東北縦貫自動車道八戸線 平成25年3月24日 上北道路(六戸JCT~上北IC) 開通 延長7.7km

○地域高規格道路の整備状況

・下北半島縦貫道路 平成28年度 横浜北バイパス(青森県むつ市中野沢~同県上北郡横浜町横浜) 事業化 延長10.4km

○下北半島縦貫道路の部分供用による高速交通ネットワークが拡大することで、供用区間沿線の自治体においては、製造業従業者数が増加傾向にあり、下北半島全域への経済波及効果が期待される。また、幅員の広い自動車専用道路が風力発電施設の大型部材の運搬を容易にすることで、風力発電施設数や発電容量が増加し、メンテナンス業務も増加傾向にあることから、下北地域の成長産業として発展が期待される。

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

・「事業効果の発現状況」にあるとおり、工区として事業目的は達成されているものの、本工区は国道279号と離れておりアクセスが悪いため、現道の国道279号から直接乗り入れが可能な隣接工区の吹越バイパス整備後に「再度の事後評価」を実施したいと考えている。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

・事業期間が延びた要因の一つに、原野商法に起因する県外地権者の用地買収不同意があった。今後は事前に用地買収の難航が想定される箇所(共有地、原野商法の有無など)を調査し、円滑に用地買収が可能となる手法を取る必要がある。

※他工区では既に実施済み

その他特記事項

・特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。